

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372800989		
法人名	医療法人社団 藤岡会		
事業所名	グループホーム日々輝		
所在地	熊本県上益城郡御船町辺田見181-1		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村報告日	令和2年 1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、笑顔・やさしさ・思いやりを理念に、穏やかに安らぎを感じ生活を感じ生活を過ごしていただけるように努めております。
一人ひとりに合った個別ケアを家庭的な雰囲気の中で行うことで、自宅で過ごしているような感覚で生活することができるようお手伝いさせてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

穏やかな空気の流れる事業所の一日の生活は、入居者それぞれのこれまでの生活歴や「出来ること」を把握した上で個別の「ケア計画表」を基本に、見守りを大切にされたケアが行われています。職員間では業務中の「声掛け」がよく見られ、訪問時にも連携がよくとれている様子が窺えました。従来から住民や近隣店舗等、地域との関係作りにも努め交流も行われていましたが、今年度は感染症予防の面から地域行事の開催が難しかったため、「入居者の笑顔を引出したい」と職員一丸となって取組まれた様子が聞かれました。これまでの管理者の思いである「入居者の言葉にきちんと向き合い応える」が職員にも引き継がれ、入居者それぞれを大切にされた日々の生活につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスについて事業所の理念に基づき、年間の活動方針を作成している。年間の活動方針をホーム内で目に触れる場所に掲示することにより、職員間で理念を共有し、実践につなげている。	従来からの理念は職員のケアに根付いており、理念である「笑顔・やさしさ・思いやり」は職員・入居者ともに感じる事が出来る。職員入職時には、日常のケアの中でも管理者から折々に話をし、事業所の理念に基づいたケアを説明している。	新しい職員も増え、体制も充実してきた様子が窺えました。会議等を利用し、理念やケアの有り方を振り返り、新たな「気づき」を全職員で共有する機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型サービスとして、できる限りの職員・利用者を地域の行事等に参加できるよう取り組んでいる。 利用者はスタッフと共に買い物等行く等、積極的に外部との接触をはかっている。	地域との関わりは事業所で取組んできていることでもあり、開設以来、地域・事業所行事への相互交流、近隣店舗での入居者との買い物等、日常的に地域の一員としての生活を送っている。今年度は感染症対策の面から店舗利用は減ったものの、近隣での散歩は普段通りに出掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常業務時間中や事業所会議の中で、よりよい認知症介護の在り方について話し合い、事業所主催の行事を地域に対して開かれた形で開催することにより認知症に対する理解や支援の方法について情報共有する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、その都度利用者の状況やケアについての取り組み、認知症についての事例発表や勉強会を行い、一般の方からの意見も取り入れサービスの質の向上に努めている。	隔月開催の運営推進会議メンバーは行政・地域・家族等で構成され、近隣店舗からの参加もある。テーマを持った勉強会や身体拘束に関する議題も持たれ、広く意見をj得る場とし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じて、地域団体や近隣他、多面との意見交換を行う様子が聞かれました。感染症対策の面から書面による開催を余儀なくされた回もありますが、このような時期であるからこそ、意見をj得るための工夫を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、主任を中心に、事業所の実状やケアサービスの取り組みについて、町と密接に忌憚なく意見をj交わしている。	運営推進会議の参加メンバーでもあり、会議の他、日常的に、電話だけでなく訪問による連絡・報告・相談を行うことで協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成、閲覧に供し、身体拘束廃止会議を隔月開催し、身体拘束のみならず不適切なケアを予防するよう努めている。	運営推進会議でも身体拘束に関する勉強会を毎回行い、身体拘束廃止会議により職員間で共有している。認知症への理解をさらに深め、関わり方を振り返りより良いケアができるよう「5つの取り組み」を掲げ取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等を事業所の会議にて報告し、高齢者虐待防止関連法について研修内容を共有することで、虐待防止に取り組んでいる。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会にできるだけ参加し、ホーム内での会議などで研修会の伝達を行い、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービスについての説明を専門用語を使い分かりやすく説明する。又、不安や疑問等がある場合はいつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時には、必ず声かけを行い、なんでも言えるよう、日ごろから情報交換を行っている。 家族会等において、要望等について話し合う場を設けている。	今年度は感染症予防の面から一時面会の中止を余儀なくされたが、現在は感染対策に配慮し面会を再開したことで、以前と変わらないよう家族を迎え、職員とも話す機会を持っている。入居者の細かな変化は管理者から家族へ連絡しており、家族への細かな対応により意見を得やすい関係作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングなどを行い、意見、要望等を聞いている。 日頃から現場でも不安、苦情等が言える雰囲気づくりを心掛けている。	日々の業務の中で、管理者は職員のストレス・心の状態等への配慮を行っている。職員は日常的に管理者と話す機会を持っており、意見・提案内容によっては管理者が法人へ繋ぎ、検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談をし、職員の考え方、利用者への思いなどを聞き、個々の役割を持つことで仕事への意欲向上を図っている。人事考課を行い、職員に応じたポジションを用意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人勉強会等や、外部研修などにできる限り多くのスタッフが学習できる環境づくりを行っている。働きながら助言しやすい環境づくりを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会等、また研修会等、他の事業所の職員の方と交流し、情報交換など、定期的に参加し、サービス介の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に何度か面会など時間を作っていたが、本人の思いや不安を受け止め、安心されるような関係づくり、なじみの関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がいつでも相談できるような環境作り、関係作りに努めている。スタッフ全員対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者やご家族と話し合い「その時」まず必要としている支援を見極め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員を介護する一方の立場に置かず、ともに支えあう家族のような関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と生活をご家族様に伝え、時には相談し、共に利用者本人を支えていく関係性を築いている。協力も多々あり、面会も多くみられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方を通し知人やなじみの方も面会に来ていただいている。また利用者本人の要望でなじみの場所なじみの人に会いたい時は外出支援を行っている。	何よりも家族との関係を大切にケアを継続しており、家族との外出や通院等もよく見られる。今年度は外出による交流は難しい状況であったが、家族の協力で畑仕事を入居者と楽しむ機会も多く見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を十分に把握し、孤立させないようにスタッフが間に入り話題を提供している。お互いに支えあうような支援に努めている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても面会などに行き今までの関係を維持している。定期的に電話や来訪いつでも相談できるような関係性をためているよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の要望、意向を把握し努めている。困難な場合は、表情、言動、環境などから思いや意向など近づけるよう本人本位に検討している。	意向の表出が難しい入居者には、職員の入居者への日々の関わり・寄り添いから把握している。入居者一人ひとりに対する細かな援助内容として「ケア計画表」がそれぞれに作成されており、職員間で入居者の生活の様子を共有することで、本人本位の生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、ご家族、知人、関係者から情報を収集しなじみの暮らし方生活環境、生活のパターン、サービス利用の経過等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその人の個人のペースに合わせ生活リズムを把握し個人に合わせた支援を行っている。有する力の現状把握をスタッフ間の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見を聞き、利用者本人、ご家族、関係者と話し合い、ご本人にとってより良いケアを見出し介護計画を作成しモニタリングも行っている。	入居者の様子は日々職員間で共有しており、半年毎の介護計画の評価にも反映されている。職員間で行っているモニタリング・アセスメント、評価をもとに介護計画は作成されている。入居者個別の一日の流れ「ケア計画表」を作成しており、入居者への援助内容等、共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄など日々の身体状況の把握をし記入している。ケアの実践、結果など個別に記録し申し送りなどによりスタッフ全員共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族の状況に合わせ必要な時は病院受診、買い物支援を行っている。その時の利用者の状態に合わせ個別で外出支援を行っている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より情報提供していただき、意見交換の場をもち、利用者に安心安全な暮らしが提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を密に行い、家族の方にも情報提供を行い、利用者、家族様の意向を第一に考え支援している。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現状、殆どの入居者が隣接する法人の医院を希望されており、月1回の往診がなされ、緊急時の対応も出来る。その他近隣の専門医受診は職員介助により、必要に応じて家族の協力による受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に、利用者の状態などの情報提供を行っている。看護職も医療との連携を取り適切な医療ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報提供を行い、入院中も利用者の状態を把握できるように、面会など多く行い、担当医と話し合う機会をもちホームで対応可能な段階で退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	スタッフが入居者に対して、不安なことやケアなど意見交換、ミーティングを行っている。体調の変化時など随時家族に情報提供を行い意向を確認している。運営推進会議を通し地域の方にも情報提供を行っている。	入居時に入居者・家族に対し重度化や終末期に向けた方針を説明している。実際にその時を迎えた際には、家族・医療機関等と話し合いを重ね、意向を確認しながら取り組んでいる。殆どの入居者のかかりつけ医が隣接する法人の医院であるため、医療面での家族の安心もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、マニュアル等の確認を行い、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時マニュアルを作成し避難場所や避難経路を職員で共有し、地域の協力体制にて年1回は協力を依頼し避難訓練を行っている。	年2回の火災避難訓練は入居者参加にて行っている。地域住民の協力も大きく、震災の経験を活かし、危険に対する意識を確認しながらの訓練や職員間の共有を行っている。	

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応ができていますか確認するため、職員個々の関わりをミーティング等にて話し合い、助言しあっている。	入居者それぞれの尊重とプライバシーについては、特に入浴やトイレ利用時に配慮している。職員入職の際には、管理者から入居者の尊重とプライバシー確保について日々のケアの中で折々に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者に合わせて声かけを行い、その中でも意見表示困難な方には行動、表情の観察を行いその方に合わせた決定の場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのリズムに合わせた生活を送っていただく。起床、就寝時や食事の時間を特に定めず起床されない場合も無理強いをしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、外出が難しい方でも安心して身だしなみを整えられるよう支援している。また、なじみの理容院がある方はホームより送迎を行い希望に合わせたカット等をしてもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、介護の茶碗洗い等、個々のレベルに合わせて行ってもらう、一人ひとりの活躍の場となっている。共同作業が困難な利用者のご飯が炊ける匂い、食材をまな板で切る音を食事として楽しみをしている。作業ができなくても食事作りはグループホームでは重要である。	食事作りの時間には入居者それぞれの状況に合わせて、出来ることを出来る範囲で関わる姿が見られる。食事の際はテレビを消し皆で「いただきます」と、家庭での食事の様子を思い浮かべる。食事担当の職員入職により、介護度の高い入居者への食事面での関わりも出来るようになった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感のある食材を使った調理を心掛けており、また入居者の好みを把握しできるだけ温かいものを提供することによる食事に対する意欲の向上を図っている。水分量は表に記入し、入居者の状況を理解し、補水に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。その方の状況に合わせて自力でできる方には手助け見守りを行い、難しい方には説明をしながら介助等を行っている。		

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所がわかりやすいように表示すると共に、排泄チェック表を利用し、排泄パターンを合把握し、その方に合わせた声かけ誘導等を行っている。	自立に向けた支援を行っており、できるだけトイレでの排泄を目指している。昼間は声掛けや誘導・付添いによるトイレの排泄を行っており、夜間も職員付き添いでトイレでの排泄を支援している。入居者の状況によりポータブルトイレの利用もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給に気遣い日頃から体操など体を動かしていただいている。便秘がある方に関しては医師の指示に従い下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調を考慮し、利用者の希望を確認している。ほとんどの利用者が楽しみにしていただいている。	週2回～3回を基本としている。体調・希望を考慮しながらも安全を第一とし、身体状況によっては二人介助も取入れ、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調を観察し、無理なく活動を促し夜間はゆっくり休んでいただけるよう努めている。眠れない時は、職員が出来る限り話し相手になり飲み物などを提供し、安心して休んでいただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等のファイルを作成し、職員全員が作用副作用、用法、用量等を確認できるようにしている。誤訳防止のため薬入れ袋の工夫を行い名前確認と服用したことの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や手伝いなど役割を見つけ力が発揮できる環境作りをしている。買い物等外出など気晴らし気分転換等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員同行で施設周辺の散歩などは随時行っている。利用者本人の希望は概ね家族の方が対応して下さり、外出支援もしていただいている。	毎日の散歩を日課にしている入居者もおられ、希望による近隣店舗への買い物等、感染症予防に配慮しながら外出支援を行っている。気候の良い日には庭で過ごしたり、入居者家族と畑作業を楽しむ等、外気を感じる機会を作っている。	

グループホーム日々輝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は一人一人のお金を管理簿を作成し、事業所で管理している。本人の希望にできるかぎり沿い、買い物に同行するなどして、自らのお金を自らの意志で使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日中利用者の家族に対し自由にかけただけのようにしている。 手紙については年賀状等が届いた方にはお渡しして利用者本人の希望があれば返事を書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に季節の飾りつけを作成。段差や踏みそうな障害物を排除し、休憩用の椅子を多数準備し、自由に動き回れるような空間づくりに配慮している。また、直射日光が利用者に当たらないように等あらゆる刺激の排除に努めている。	木造一軒家の温かみある造りの事業所には、入居者一人ひとりのフレーム入りの写真が飾られ、笑顔で迎えてくれる。リビングでは食事を楽しみに待つ姿や、畳スペースのこたつでは歌番組を楽しむ姿等、職員と入居者の会話弾む様子がある。入居者の歩行への配慮も必要であるため、清掃にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内での移動をできるだけ制限しないよう家具を配置し、またくつろげるスペースを和室、談話室、ホール、廊下のソファと設置し一人でも多数でも落ち着いて過ごされる居場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者宅より利用者本人や家族の写真を借りて壁に飾ったり、利用者本人が使用していた家具を配置したり馴染みのものに囲まれ居心地よく過ごせるようにしている。	洗面台が設置されている和風の居室には、入居時に使い慣れた生活用品を持ち込み、布団・ベッド等好みにも合わせ、安心した生活を送る事ができるようにしている。家族の関わりもよく見られる。臭気対応のため換気もよく行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者ひとりひとりの生活歴・趣向に応じてできる役割を見出し、力を発揮していただくようミーティング等で話し合い、できる限り自立した生活を充実感を持って送っていただくよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム日々輝
作成日 令和 3年 1月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	会議を行っている頻度が少なく、スタッフ全員に現在の状況や介護方法など伝わっていない。 高齢者身体拘束についても一部スタッフだけで学んでおり全体にいきわたっていない	月1回会議を行いカンファレンス後身体拘束についての勉強会を行う	会議についてケアカンファレンスを行う。一人一人支援状況を見直し必要時変更する。ケアプランを再確認しプランに沿ったケアができていないか確認する。 ホームでのグレーゾーンがないかみなで話し合い検討する。推進会議で学んだ資料を元にスタッフ全員周知できるよう勉強会を行う	12か月
2	4	定期的に運営会議を開催することができず、報告、情報提供、情報収集などが不十分である	感染防止対策を十分に行い、定期的運営会議を開催できる	感染拡大状況の把握 開催できない状況でも詳細な情報を記載した資料作成を行い、資料に対して意見を電話や書面を用いて確認する	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。